

資料5 制度説明会及び参加者のアンケート結果

キックオフ説明会について

参加者93名（NPO66、企業・大学生3、他都市行政2、市職員22）

開催日時：平成20年5月10日（土）13：30～16：30

会場：福岡市庁舎1階ロビー

プログラム

1. 開会挨拶 市民局コミュニティ推進部長
2. 講演「NPOと行政の連携の可能性と課題」
講師 日本NPOセンター事務局長 田尻佳史氏
3. 田尻氏への質疑応答 ～会場とのやりとりで進行～
※共働促進アドバイザーの加留部貴行氏と十時裕氏を紹介
4. 制度概要の説明（「応募の手引き」により説明）
5. 13の課題例について市担当者のコメントタイム
6. 名刺交換タイム



テーマ別説明会について

4テーマについて課題を提示した市担当者が、課題について説明を行った後、共働促進アドバイザーの進行により、テーマや制度について参加者の質問に対応した。

N○1 こども・教育テーマ（アドバイザー：加留部 貴行氏）

参加者44名（NPO32、市職員12）

開催日時：平成20年5月12日（月）19：00～21：00

会場：福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」

N○2 健康福祉・ライフスタイルテーマ（アドバイザー：加留部 貴行氏）

参加者31名（NPO24、市職員7）

開催日時：平成20年5月13日（火）19：00～21：00

会場：博多区保健福祉センター2F 集団指導室

N○3 環境共生のまちづくりテーマ（アドバイザー：十時 裕氏）

参加者15人（NPO11、市職員4）

開催日時：平成20年5月14日（水）19：00～21：00

会場：早良市民センター3F 第2会議室

N○4 シティプロモーションテーマ（アドバイザー：十時 裕氏）

参加者14人（NPO12、市職員2）

開催日時：平成20年5月15日（木）19：00～21：00

会場：福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」

キックオフ説明会のアンケート結果（45名回答）

- これまで参画の機会を待っていましたが、今回こういう場を設定してもらい、有難く思います。
- アドバイザーの方を置いたのは良かったでは。かみくだいた説明で良くわかりました。机があるともっとよかったです。
- 4つのテーマの範囲がわかりにくい。
- 短い時間に濃い内容を入れてくださって、市のパワーを感じました。このようなパワーをぜひNPOと一緒に使わせていただければ、いい成果が出そうだと思います。企業の方の参加がありました。何か広いネットワークが出来そうです。ぜひ企業の方も参加していただけるようお計らいください。

- わかりやすく、これから活動していく目標がはっきりしてきました。行政が何を求めているのか、それにどう答えていけばよいのかも明確になったのでメンバーとよく検討し、今後の活動にも生かしていきたいと思います。
- 貯金のできないNPOで毎年資金は使い切りです。自己資金というのはない。収入を上げると「お金は返す」ということ？やりたいことはありますが、ない袖はふれないなどお金の事で悩みつつ帰っております。
- 確かに民間がまず頼るのでなく、しっかりした体制をもつことが大切だと共感しました。これから、行政といかに関わっていけば良いのかを考えていこうと思います。
- 良い仕組みだと思います。各事業担当課ごとに「共働のあり方」やNPOと行政の関係性が違って来るだろうと感じています。審査～評価の過程でお互いに学ぶことが多そうです。
- 福岡市で活動を始めて、まだ浅いのですが、福岡市が市民に近くなった気がします。
- 大変良い制度がスタートしたと思います。継続性があり、良い結果が出るといいですね。今回は私共とマッチングできる場面は無いのかもと思いますが、又、次年度以降に期待致します。
- 役所の方が売り込み（13 課題の説明）をしているのを始めて見ました。公務員はかくありがたいものです。市役所全体が、このような動きになれば市もまんざらではないと感じました。
- 行政の人間として「共働」に対する心構えと頭の整理ができました。

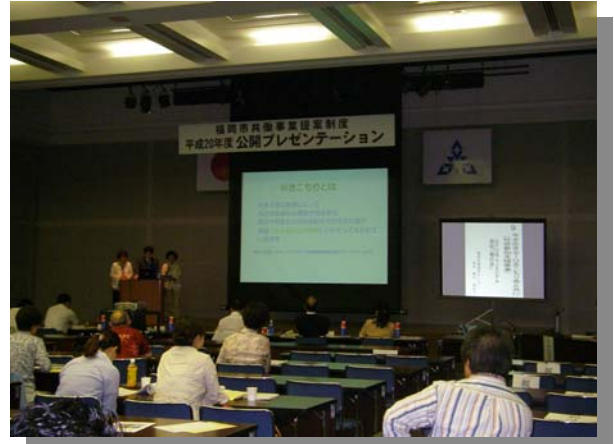
資料6 公開プレゼンテーション及び傍聴者のアンケート結果

公開プレゼンテーション

参加者158名（提案発表団体20、市担当課9課、その他傍聴者）

開催日時：平成20年9月13日（土）10：00～17：10（開場9：30）

会場：福岡市庁舎15階 講堂



公開プレゼンテーションのアンケート結果（34名回答）

- 初めてこのような公開プレゼンを見ました。NPOの方々のプレゼンの技を磨いたり、又、広く事業を市民に知らせるいい機会かと思えます。
- 研究・実態調査にお金をかけないでほしい。現実的に現場で活動しているところにお金を使って欲しい。
- NPOにしか出来ない事、行政にしか出来ない事、共働でしか出来ない事を考えていけたらと思えます。行政も「共に汗をかく」同じ目線で取り組めることを望みます。
- NPOとの共働は素晴らしいことだと思えます。ただし、NPOとだけ共働ではなく、民間企業の中にもある同様の取り組みにも、スポットを当てていただきたい。かつて”民活”という言葉がありましたね。
- 一般聴衆向けにプレゼンをする、予算書を作る、市に期待する事を明らかにする事によって、本当に共働に値する活動かどうか良くわかるのでとても良い方法だと思えます。
- ”こども”に関しては、昔ながらの普通の元気な子どもと、支援が必要な子どもを大きく2つに分けて考えていかないと、今後はニートの数が増える可能性が大きいので、早く予防的な具体策がほしいと実感しました。

- NPOなど民間の運営は厳しそうだし、市側も短年での予算を考えて動いてあるようだし、相当難しいことなのだろうと思います。このような幅広い取り組みの公開プレゼンの場があるだけでも参考になります。今後はここに参加した団体のネットワークが強化されると良いと思いました。
- 共働提案事業として、はじめての事業を選択するにあたり、補助や後援にあたるような内容ではなく、新たな発想や手法など、共働の意義が明確になるものを選定いただきたい。
- 今までたくさんの取り組みがされている中で、本当に子ども達が喜ぶ事業はどれくらいあるのでしょうか？少し不安に思っていたのですが、今回はNPO団体方の柔軟な発想が聞けてよかったと思います。是非共働事業として実現して下さい。又、毎年このような企画を継続してください。
- いろんな団体の活動を知ることができ、勉強になりました。